

シンポジウム

① 舞の英智

はねる・おどる…

そして 環・輪・和…

那須みふじ幼稚園 舞踊講師

花柳流花柳会 理事長

花柳 和

「守」「破」「離」から始まり

終わりなき「ひとすじの道」— 五つの柱

- (1) 幼少期に会う「日本舞踊」と天野蝶先生との出会い
- (2) 修業時代
- (3) 舞踊教育への道 — 大学へ赴く松本千代栄先生との出会い
- (4) 幼児教育への道 — 那須みふじ幼稚園との出会い
音楽評論家 園部三郎先生との出会い
- (5) 東京「和の会」那須「和の会」 — 一門開設の想い弟子との出会い

日本の伝統文化に根づく「日本舞踊」を柱として自分自身の生きる力は「型」の文化の中に温かく心深くゆっくりと根づくものであると実感している。「型」は人間の生きる知恵から生まれ出た人と大事に向かい合い共有し、呼吸を共にする大切な「要」であると信じている。「型」は堅苦しいものではなく「型」を知り、「型」に遊び相手に対して心地よくリズムを合わせる術でもある。自然にふるまわれるお行儀や、相手を想うしぐさを学ぶ。師匠を見続け、先輩から学びとり、それを身につけ、そして自分も後輩に伝えてゆく楽しさでもある。

徐々に舞台 — 桧舞台 — に立つ経験を積み、それは一段と日本舞踊の「とりこ」になってゆくことでもある。それは地方（じかた） — 演奏家 — の方々が生演奏で自分の踊りを共に創りあげて下さる方々への感謝とともに醍醐味でもあるが、私自身これは一部の人達だけが経験するだけのものではなく、日本の伝統文化は教育の中に入らなければならないと切に感ずるようになった。そして大学へ赴き学生の方々に伝え続けた。そして念願だった那須みふじ幼稚園開設の折に、初代園長の内海暢子先生のお力により幼児教育の中に舞踊教育として日本文化を授業として取り入れて下さった大恩人である。現在も三代目園長 高橋明男先生のお陰で早や半世紀にもなろうとする歴史を刻まれて、全園児が自然な形で体験することが出来ている。

那須と東京との文化の違いなど多くを学びながらも、まさに今も私は全ての子ども達の持つ原初的な大事な情動を感じ感情・言葉が光り輝く宝物のように私自身の体にふりそそぎ生きる力をたくさん浴びて幸せを感じている。